

野菜の展望

6月に入り、地物野菜が豊富に出回る時期となります。施設物の果菜類や露地野菜の順調な入荷が予想されますが、梅雨入りシーズンで降水量によって入荷量や価格の変動が大きい月でもあり、商品管理に気を付けたいところです。

季節商材の梅は和歌山産を主体に福井・石川産の入荷です。和歌山産南高梅は凶作の昨年よりは増えるものの、平年より少ない見込みです。昨年同様、雹害により秀品率は低く、下等級の発生率が高い見込みです。らっきょうは石川産を主体に徳島産他の入荷となります。各産地、生産者の高齢化に伴い入荷減少傾向です。

葉洋菜類のレタスは長野産主力に石川・群馬産の入荷となります。ブロッコリーは石川産が中心となり、加賀・白山・珠洲の各農協を通じて順調な入荷が予想されます。下旬からは長野・北海道産の入荷も予定しています。アスパラガスは、春芽は長野・山形産が中心で、上旬から中旬に向かい終了時期となります。夏芽は上旬から長崎・福岡産が入荷し最盛期を迎えます。キャベツは愛知産夏キャベツを中心に千葉・石川産の入荷です。白菜は茨城産主体に長野産の入荷が見込まれます。葱は夏葱へと切り替わり、茨城・大分産主力の入荷となります。福岡産万能葱を中心とする青葱は、他に愛知・静岡・長野産を加えた販売です。ほうれん草は飛騨高冷地主体に静岡・北関東産の入荷となります。県内産は、能登地区の産地が震災後一部回復し入荷があります。

果菜類の胡瓜は石川・群馬・福島産を中心に順調な出回りが見込まれます。加賀太きゅうりは最盛期を迎えます。トマトは石川・愛知産主力となり、石川産は最盛期を迎えます。茄子類は高知・愛知・群馬産主力で、地物を含めて全体では順調な入荷を見込んでいます。ピーマンは高知産主体の入荷が続きます。南瓜は鹿児島・長崎産主体に石川産、輸入品はメキシコ産の入荷となります。スイートコーンは愛知・山梨産の入荷で、下旬には愛知産が最盛期に入ります。

根菜類の大根は青森産主力に石川産の入荷を予定しています。人参は岐阜・和歌山・青森産の入荷となります。蓮根はハウス物で愛知産の入荷を予定しています。甘藷は石川産が上旬で終了となり、茨城産貯蔵物と高知産ハウス物の入荷を予定しています。

菌茸類の菌床椎茸は石川産主体に長野・富山・兵庫・徳島産の入荷となります。気温上昇と共に上位等階級品の比率が下がりますが、比較的順調な入荷が予想されます。なめこ・えのき・しめじ・まいたけ・エリンギは石川・長野・新潟産他の入荷で減産期に入っており、6月上旬はGW休みの影響により入荷は減少を見込みますが、その後は回復し安定した出回りとなります。

土物類の馬鈴薯は長崎産で、順調な入荷が見込まれます。玉葱は愛知・兵庫・大阪産等の入荷となります。3月期の低温と日照不足が影響して前年より少ない見込みです。ごぼうは群馬産の出荷が開始され、2M サイズを中心に順調な入荷となります。新生姜は4kgDB で高知・和歌山産の入荷を予定しております。

6月は父の日、中元商戦の幕開けとなる月です。各イベントにマッチした拡販にご協力いただきたくお願い申し上げます。

《取締役野菜担当営業副本部長 嶋田 亮》

果実の展望

いよいよ梅雨入りの季節を迎えます。今月の県内産果実については地物の西瓜・デラウエア等の出荷が始まります。

ハウスみかんは愛知・佐賀・福岡・大分産の入荷で、愛知産は中旬より入荷増の予想です。品質は良好で玉流れは平年並みのMサイズ中心となりますが、若干小玉傾向の流れとなっています。

西瓜は前半が熊本・千葉産主力となり、6月10日頃から石川産の販売も予想されます。県内産については7月中旬に最盛期を迎えると予想され、小玉西瓜については上旬より県内産の入荷を予定しています。

初夏を彩る桜桃は山形産が主力の入荷となります。紅さやかは上旬から、佐藤錦は中旬からの入荷予定となりますが、受粉時期の天候の影響により着果不良となっているため、昨年に引き続き数量減が予想されます。

デラウエアは前半が大阪・奈良産中心の入荷となっており、県内産については25日過ぎからかほく市高松地区を中心として金沢市近郊のものが加わり、日増しに入荷量は増えて本格的な時期を迎えます。

瓜類ではアールスメロンが静岡・高知・熊本産の入荷で、昨年よりやや少ない出回りとなります。愛知・茨城産のアンデス・クインシー・イエローキング等は、2L・LA サイズ中心の玉流れでいずれも2～3割減の入荷が予想されます。

桃は山梨産中心の入荷で、中旬より露地物の入荷となります。

スモモについては和歌山・山梨・福岡産の出回りとなります。生育は各産地ともに順調で、主力の和歌山・山梨産については平年並みの入荷量が予想されます。

いちじくは愛知産のハウス物の入荷があります。

輸入果実のバナナについては、フィリピン産・南米産とも安定した入荷を見込み、需要も高まり増加傾向となる見通しです。オレンジはアメリカ産のバレンシア、オーストラリア産はネーブルの販売となります。グレープフルーツについては南アフリカ産ルビー種中心の販売で、少数ですがホワイト種の入荷があります。レモンはカリフォルニア産の入荷がやや少なく、中旬からはチリ産へ切り替わります。パインはフィリピン産ゴールデン・スイーティオ共に安定した入荷が予想されます。アメリカンチェリーは、上中旬はカリフォルニア産ビング種、中下旬はワシントン州産早生種の入荷となります。

キウイフルーツはニュージーランド産のグリーン・サンゴールドの入荷です。その他にもマンゴー・アボカド・ハネジューメロン・マンゴスチン・ライチといったトロピカルフルーツ等が豊富に入荷して季節感を漂わせてくれます。

今月は中元シーズンに入り、ギフト需要は増加となります。何卒ご拡販の程宜しくお願い申し上げます。

《取締役果実担当営業副本部長 荒木 智》